

2019年度市政懇談会 開催結果概要

- 日 時 令和元年7月16日(火)午後6時00分～
- 会 場 音別町コミュニティーセンター
- 出席者 27人

〔市長より説明 (別途資料参照)〕

〇つながる まち・ひと・みらい ひがし北海道の拠点都市・釧路

- ・釧路市の現状と課題
- ・釧路市まちづくり基本構想
- ・雇用の拡大、人材の確保
- ・子育て環境に係る施策
- ・学力向上に係る施策
- ・防災に係る施策
- ・都市機能向上に係る施策

●質疑応答

【参加者A】

何点かお願いがあります。

一つは、音別には共同のお墓や納骨堂がないため、単身者などの遺骨の問題もあるので可能であれば作っていただきたい。

次に、白糠町とも関係しているが、JR北海道の白糠駅、池田駅、釧路駅のバリアフリーがなっていません。現在、下りと上りのエスカレータがないため、赤ちゃんを抱いて荷物を持っている若いお母さんや足腰の弱い高齢者が、JRを利用することができません。特急も同じく、白糠駅は2番線ホームに下りの列車が停まるため、跨線橋を渡らないと駅から出ることが出来ない。そのため、白糠駅も釧路駅同様1番ホームに着いていただければ、音別の人も白糠の人も特急に乗って札幌や帯広に移動できます。

また、白糠－釧路間の特急料金を無料にさせていただきたいです。現在の2番ホームから1番ホームに変えるだけでも6,000万円掛かるらしいが、そうすれば、白糠駅から釧路駅まで高速交通網ができるのでよろしくをお願いします。

【市長】

JR駅のバリアフリー化に関しては、2020年(令和2年)までにバリアフリー化を実施するルールがあります。こちらのバリアフリー化については、乗降3,000人という決まりがあります。そこで、釧路市の場合は、釧路駅をどのようにするか現在検討中ではありますが、バリアフリー化を進めております。

【参加者A】

JR北海道に対する地域連絡協議会を通じて、釧路市と白糠町共同でJRに提案して欲しい。

J R北海道も目立ちたい事をしたいはずであり、予算もポイント切り替えの改良費の6,000万円だけであるため、白糠－釧路間の高速交通網ができあがれば、地域の活性化につながると思う。

【市長】

J Rの再生計画が進んでいる中で、赤字をどのようにするかという状況になっております。今回のようなお話は、白糠町と話をしたことは無く、また、初めてお聞きした内容です。我々は、今、J Rの鉄路の問題で、釧網線や花咲線が赤字の状況で、社会資本として残していく形をとっておりますが、ただ残すのではなく、利便性を増していくことも重要であると思っておりますので、ご相談しながら進めていきたいと考えております。

【音別町行政センター長】

現在、音別地区にある墓地には、共同の埋葬地がありません。今後、墓じまいなど、住民の方々がどのように考えているのかを十分踏まえた上で、検討していきたいと思っております。

【参加者A】

閉店したイトーヨーカドーのその後の利用について、可能であれば各種学校を集めて複合施設にさせていただきたい。例えば、現在、釧路市に料理学校がないため、料理人が非常に少なく困っており、あと10年もすれば釧路に料理人が来なくなってしまう。また、他の専門学校も親御さんが高い下宿料を払い、札幌に子どもを送り出しているが、釧路に帰って来てくれません。あの施設の場所は、バスセンターになっており、交通の便も良いため、ぜひ活用していただけるような各種学校を集めた施設にさせていただけたら、若者達も喜ぶと思っております。

【市長】

長い間、イトーヨーカドーに営業していただいておりますが、全国的にも各地域で撤退が続いているところです。この場所は、ビルのオーナーがいらっしゃって、そこをイトーヨーカドーが借りて営業を行うシステムでした。今、オーナー側が、次の店舗予定者と折衝していると伺っておりまして、まずはそこが重要であると考えております。その上で、料理学校などの各種専門学校も重要であると考えております。

昔、教育委員会は、義務教育学校や市立高校を見ていくこととなっております。しかし、大津市でのいじめ問題から、それぞれの自治体の首長がトップとなった総合教育会議を作り、そこがしっかりと色々なことに対応するように法律が変わりました。現在、総合教育会議のトップに私が就いており、今一度、地域の教育力を考え、小中学校や市立の北陽高校の他に保育園や幼稚園、私立・道立の高校、大学、各種専修学校も入っていただき、いろいろなご意見をもらい、どのようなことができるか一緒に考え、進めているところです。まだ、保育園や幼稚園から始めているため、専修学校の皆さん方との意見交換まで行き着いておりませんが、近々、課題などを伺いながら、行政体としてどのよう

にすることができるのか、一緒になって相談できるように進めていきたいと考えております。今回いただいたご提言は、調理師会も含め、各団体と話をする際に、話題として挙げていきたいと思っております。

【参加者B】

私は、釧路市老人クラブ連合会の副会長をさせていただいているが、10年前は会員が5,000人程いたが、現在は700人になっており、音別も同様に激減している。老人クラブでは、お年寄りが元気にクラブ活動や長生きを目標に活動を行っており、ほとんどのクラブは、一人年間2,000円の会費をいただいておりますが、月一回の例会などを行うためには費用が足りないため、釧路市から補助金をいただいております。ただ、補助金額の決め方が15人まではいくら、30人まではいくら、50人以上ではいくらという決め方となっております。そのような決め方ではなく、公平に一人当たりいくらという決め方にするのができないでしょうか。

また、人数が減るということは、運動やクラブ活動にしても、昔はよくゲートボールやパークゴルフなどをやっておりましたが、人数が合わなくなってきました。釧路には、立派なパークゴルフ場がありますが、皆さん足腰が痛くなってリタイアしております。高齢者が増えてきていますので、もっと高齢者を大事にしてもらいたいと思っております。若い時から一生懸命働き、退職し、たくさん税金を納めてきました。年をとったから、人数が増えたからと言わずにもう少し考えていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひします。

【市長】

ご意見ありがとうございます。補助金の決め方については、北海道の算定方法に合わせて行っており、各自治体はその枠組みの中で、一人ではなく全道の中で老人クラブを維持しながら、補助金を出していく取り組みが算定根拠になっているところであります。その上で、私どもも、元気な高齢者が長生きしていただくことが理想の社会であると考えており、健康寿命を延ばしていくことが重要となっております。併せて、国の方では、アクティブシニアという世代の方々が、色々なことに気持ちや体的にも積極的に参加できるような環境を、しっかりと作っていくことが目標として掲げられております。

私どもとしても、多くの方々がパークゴルフやゲートゴルフ以外にも、健康に結びつくような事業を行政の中で行っていきながら、そこにも参加していただくとう色々な広報を通じてご案内させていただいているところであります。音別におきましても、元気で長生きしていただく社会に向けて、各種事業を行っている状況であります。

【音別行政センター長】

音別地域の65歳以上の方は、市全体のパーセンテージよりもかなり高い現状となっております。一方で、生産年齢人口の比率が著しく低いこともありますので、高齢者といいつつも、いつまでも元気にこの地域で色々な役割を担っ

ていただくことが、音別地域で大切なことであると思っております。そういう面では、いつまでも元気でいられるように色々な政策をこれからも一生懸命行っていきたいと考えております。

【参加者B】

補助金の決め方は、北海道の算定方法と聞きましたが、釧路市老人クラブ連合会は、約10年前から年会費などを理由に、北海道老人クラブ連合会から脱退しておりますが、北海道とは関係なく決めることはできないのでしょうか。

【市長】

我々は、北海道の自治体や北海道の基準に合わせて補助金を算定しており、あくまでも活動費を補助しているものですから、北海道老人クラブ連合会に入っている、入っていないにかかわらず、同じ基準の中でクラブ活動を進めていくために、その補助金を活用していただきたいとの考えで行っております。

【参加者C】

今現在、個人の年金不足問題がありますが、私自身、地域が稼げば医療費や教育費も無料になると思っており、行政として、まず取り組まなければならないことは、地域でいかに稼ぐか、もしくはいかにコストを節約していくかということが必要だと思います。その中で、5年前にまち・ひと・しごと創生総合戦略を定めたが、5年間の総合戦略の結果について、特徴的な点を2、3点ご説明いただきたいと思います。

【市長】

先程の説明の中で、転出超過している話をしましたが、私どもは、働く所が無いということで、釧路から出て行っている状況があることから、そこに関する情報を出すことや、地元の会社が何とか雇用に結び付けられるよう、売り上げ増を図ってもらうために、色々行ってきました。その結果、昔の転出数は、500人ぐらいだったところ、まだマイナスではあります。200人に抑え、最終的にはプラスにしていくように行っております。

【総合政策部長】

まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要と事業について、ご説明いたします。こちらは5年前に策定し、釧路市の重点戦略は、四つあります。

一つ目は、『わかもの』の希望がかなうまち・くしろ」を目指す。二点目は、『女性』の希望がかなうまち・くしろ」を目指す。三点目は、「すべての人の『住み続けたい』という希望がかなうまち・くしろ」を目指す。四点目は、『来たい・住みたい』と思えるまち・くしろ」を目指すというものです。

四点目は、長期滞在や移住など、新たに他の都市からこの地域に来てもらう住んでもらうというもので、当然、住むに当たっては、職という部分でこの地域でも仕事に就いてもらうことを目指すものになっております。

【参加者C】

企業誘致としてどのようなところがあるか、事業結果をコストパフォーマンスや数値など、定量的に説明していただきたい。

【総合政策部長】

長期滞在については、目標を大きく上回る実績となっており、現在、約1,400人の滞在、全体で約2万泊であり、3～4年間で取ったアンケート結果から3億円程の経済効果が出ております。

5年の中で行っている他の大きな事業としては、k-Bizがあります。現在、700件近くの相談数がありますが、相談に来る数ではなく、その後の各事業者の収益に反映し、最終的には市への税や雇用に反映していくものであります。

【参加者C】

まだ結果は出ていないが、k-Bizの次に経済効果のある事業は何ですか。

【産業振興部長】

産業の企業誘致の関係については、例えば、パプリカの工場やセイコマート流通センター、中部飼料株式会社といったところがあります。この他にも、益浦地域の東光薬品工業株式会社も増設に向かう動きがあります。

【参加者C】

定量的に経済波及の見込額を数値化できないか。

【産業振興部長】

企業にどのくらいの効果が出ているかについては、今はお持ちしておりませんが、直接的投資だけでも数十億円単位でありますし、火力発電所も建設が進んでおり、これは数百億円規模と言われております。そのようなものを踏まえると相当の規模があると思います。

【参加者C】

太陽光発電に関しては、釧路地域が一番恵まれている。恵まれた稼げる地域であることから、私どもとしては、行政に頼らざるをえないが、年金問題も釧路地域においては関係ないというパフォーマンスを、元気を出してやって欲しいと思います。

【市長】

私どもは、地域の活性化や経済、働く、稼ぐといったことを面と向かって言うのはどうかという風潮があるかもしれないが、現実の話だと思っております。

これは、人手不足という観点からしても、給与が高ければ人が流れていくことは現実としてあります。そうなると、しっかりと給与に反映できるような会社が儲けていただくことが重要でありますし、そのためには、地域の中の産業を作る・しっかり活用していくということです。

北海道自体が大量生産大量消費という流れの中で、薄利多売を進めてきたことが歴史的にあると思っております。そのような中で、北海道に住んでいる側としては、北海道は日本の食料基地であるという言葉を使います。しかし、本州の方々は、北海道のことを食料供給基地というように「供給」という文言が

付きます。これは、真剣に考えていかなければならない点で、ただ、物を作って出していくのではなく、しっかりと付加価値を付け、適正な金額の中で利益を出していかなければならないということです。

先程、お伝えした長期滞在についても、昔は寒いと言っておりましたが、涼しいということにして、道内でのちょっと暮らしでは8年連続No.1を取っており、2位の滞在人数は釧路の10分の1であり、泊数からしたら釧路の4分の1であります。それだけ1位と2位の差があるぐらい、涼しい釧路で避暑生活という形でPRしていき、この10年の中でそこまで持ってきているところです。併せて、夏だけでなく冬にも来てもらうために、北海道にはスギ・ヒノキは無く、シラカバ花粉があるところですが、釧路地方には、花粉が全く出ないため、奄美や沖縄同様避粉地帯の快適空間として、冬の釧路のPRを行っているところです。

このように、他との違いをどのように結び付けていくか、先程、話に出てきたパプリカにいたしましても、釧路が冷涼な気候だとして、技術を使って行っております。日本全体の中で、他にも植物工場がたくさんありますが、他の工場の平均的な年間生産量は一平米あたり15～20キロです。釧路の工場の生産量は、1年間で一平米あたり25～30キロであり、それだけ生産性が高いということです。これは、温度管理がしやすく、日照時間が長いということで、そのような強みがあるということです。

今までは、「だめですよね」と言われていたものが、技術や色々なものと組み合わせることで、逆にここがより生産性が高くなって、強みを出せるということもあるのです。中部飼料株式会社の進出もそうです。今までは、BSEの問題があった時に、A飼料・B飼料と分かれており、A飼料は搾乳関係であるので釧路、B飼料は苫小牧という形で整理されました。しかしながら、気候の変動で、例えば鹿児島など畜産を盛んにやっておりますが、様々な疫病などが起こるなかで、これでは大変だということで、アメリカに一番近いということもあり、釧路で国際戦略バルク港湾がスタートし、パナマックス船が入って来て、安価な飼料が入るようになります。そこを見込んで、中部飼料株式会社がここで工場を建てるということは、A飼料だけではなくB飼料を作りながら、このひがし北海道の地域で色々と進めていこうといったものがある訳です。

私どもは、違いや世の中の流れ、世界のことを踏まえていく中で、この地域の強みをマッチングさせていき、何とか稼ぐように持っていくというイメージの中で進めているところであります。